

市政トピックス TOPICS

総合防災訓練 地域の命は 地域で守る



消防・警察・自衛隊による迅速な救助



各所で美味しい炊き出しも

9月1日に市役所本庁舎などを会場に、総合防災訓練が開催されました。台風被害を想定した対策本部会議を行うとともに、市内各地で避難所の開設・運営を行うなど、市民約500人が参加しました。本庁舎では自衛隊派遣を要請した想定で、自衛隊・警察・消防が連携した救助活動や、中国電力(株)による電力の供給、岡山県LPガス協会真庭支部によるガスの供給、水道課による給水の実演などが行われ、参加した人たちは緊迫した中で行われる訓練に見入っていました。



簡易ベッドの使い心地は?



避難所での各班の役割を確認

8月31日、ひるぜんジャーゼラントでドイツ&馬術フェスin真庭が開催されました。真庭市は馬術の強豪国であるドイツのホスタウンに登録されています。会場では、ドイツや馬術について紹介するパネル、馬具やリオデジャネイロオリンピックに出場した原田喜市選手の制服の展示のほか、30食限定でシュニッツェルと呼ばれるドイツの肉料理や、ソーセージ、ドイツビールの販売も行われました。

ドイツ&馬術フェスin真庭 ドイツを知ろう



ドイツってどんな国なのかな



全国から集まった精鋭が競い合う

全国消防救助技術大会 日々の訓練の成果

8月25日、岡山市消防教育訓練センターで第48回全国消防救助技術大会が開催されました。全国から選ばれた救助隊員により、陸上の部8種目と水上の部8種目が行われ、真庭市消防本部からは、中国消防技術指導会で好成績を収めた5人の隊員が陸上の部2種目に出場。はしご登はんの部では平島隊員が最優秀賞を獲得しました。真庭市消防本部の隊員が最優秀賞を獲得するのは初めてで、今後も活躍が期待されます。



市長室から
こんにちは!

岡山道・米子道 全線4車線化に向けて

市長に就任して以来、念願していた一つは、岡山道・米子道の全線4車線化でした。暫定2車線の高速道路は問題が沢山あります。第1に交通事故の死亡確率が高いこと。つまり安全性に問題があること。第2に定時制が確保できないこと。高速道路に乗り、前方で事故があると交通渋滞が起こることです。場合によっては長時間身動きすらできなくなります。第3は、災害にも弱いことです。第4には高速運転できないことです。岡山道で制限速度が70キロです。

全線4車線化を目指して、岡山県と県議会、真庭市など沿線市町の首長や議長、民間団体など、広範な関係者が頑張ってきました。関係国会議員にも熱心に動いていただきました。鳥取県側もお互い協力してよく動きました。そのような広範な関係者の熱意が遂に実ったのです。9月10日、国土交通省が「高速道路における安全・安心基本計画」を発表しました。有料の暫定2車線区間道路1,600キロメートルのうち約半分880キロメートルを優先的に4車線化することになり、岡山道・米子道の暫定2車線区間も対象に入ったのです。こんなに早く実現することが決まるなんて、嬉しい限りであります。運動の再活発化を主唱した者として内心ほっとしました。

これからすべきことは、今回4車線化方針決定の、岡山道の賀陽・有漢間13キロのうち5キロ、米子道の蒜山・米子間33キロのうち13キロについて、一刻も早い工事着工を実現させることです。

そのためには、広範な世論が重要です。市民の皆さんも運動に加わっていただき、一刻も早い岡山道・米子道の全線4車線化を実現しようではありませんか。



田中住職の話に聞き入る参加者

心の健康づくり講演会
つないできた「縁を次につなげて

9月4日、美甘振興局で心の健康づくり講演会が開かれ、55人が参加しました。講演会では神戸市にある高野山真言宗西室院の田中宣照住職を講師に招き、真庭市が力を入れている自殺対策の一環として「命」をテーマに話を聞きました。田中さんは自身の経験や僧侶として学んだことをもとに命の縁を自分がつなげていくことの大切さを説きました。この講演会は元気な笑顔みかも21実行委員会が2年に1回開催しています。



張り詰めた空気の中、訓練の成果を披露

優良消防団表彰審査
積み重ねた訓練の成果を披露

9月15日、岡山県消防学校で優良消防団表彰審査が行われました。この審査は、真庭市消防団の訓練および簿冊の審査を受け、日本消防協会の「優良消防団表彰旗」受賞に必要な審査です。北房方面隊が部隊訓練（停止間）を、落合方面隊が部隊訓練（行進間）を、湯原方面隊がポンプ車操作を担当し、猛暑の中、日ごろから積み重ねてきた訓練の成果を披露しました。審査結果は11月頃に発表される予定です。